

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
○キャリア教育の充実。 ○心が通う生徒指導の充実。 ○わかる授業、学び合う授業の創造と学力の充実。 ○人権教育の推進。 ○健康・安全教育の充実。 ○心を育てる家庭・地域との連携。	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 A 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 A 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(中学校3年) ○国語A、数学Bについては、県平均と比べると正答率が高い。 ○国語B、数学A、理科については、県平均と比べると正答率は低い。 ○数学Aの「図形」領域については7割以上の理解ができて、「関数」領域では知識・理解の面で課題がある。(例)底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ問題。本校70%(全国58%)、比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める問題。本校44%(全国55%)、一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ問題。本校40%(全国56%) ○国語、数学の正答率が県平均を上回ったが、英語については県平均を下回った。 ○国語、数学とも標準スコアが昨年度より上昇した。 ○英語の「聞くこと」「読むこと」領域の平均正答率は全国を上回っているが、「書くこと」領域の平均正答率は全国を下回っている。(例)対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。本校69%(全国57%)、英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じることができる。本校64%(全国50%)、読み取った英文の内容をふまえて、作文を書くことができる。本校19%(全国31%) ○数学の正答率が県平均を上回ったが、国語の正答率は県平均を下回った。 ○国語の「話すこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率は全国平均とほぼ同じだが、「書くこと」領域の平均正答率は全国平均よりかなり低い。(例)小学校で学習した漢字を読むことができる。本校71%(全国61%)、指定された文字数で書くことができる。本校30%(全国43%)	【学習状況調査の結果】 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合が県平均よりやや少ない。また、家庭で全く勉強しないという生徒の割合が県平均よりやや高い。 ○読書の時間は一日10分～30分の生徒の割合が約3分の1で最も多い。しかし、ほぼ同じぐらいの割合の生徒が「まったく読書をしていない」と答えている。 ○家で学校の宿題をしている生徒の割合は県平均とほぼ同じだが、予習や復習をしていると答えた生徒の割合は高い。 ○テレビ等の視聴時間が1時間以上と答えた生徒の割合は県平均よりやや高いが、3時間以上と答えた生徒の割合は低い。 ○テレビゲームを1時間以上と答えた生徒の割合は県平均よりやや低く、全くしないと答えた生徒の割合がやや高い。 ○携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上していると答えた生徒の割合はやや低い。 ○生徒会を中心にあいさつ運動に取り組んでおり、「あいさつ」に関わる項目の肯定的な割合が、県平均よりかなり高い。 ○「自分にはよいところがある」と答えている生徒の割合が県平均よりやや高い。 ○「自分の住んでいる地域が好きである」「自分が住んでいる地域の人が好きである」「今住んでいる地域の行事に参加している」等の地域に関する項目の肯定的な回答率が県平均より高い。 ○国語、数学、理科、英語ともに「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒の割合が、県平均より高い。 ○授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなど学習活動に取り組んでいると思う」と回答した生徒の割合が、県平均よりかなり高い。 ○補充学習については週1回参加していると答えた生徒が約半分おり、県平均より参加している生徒の割合が高い。

成果	課題
○協同学習により、話し合いや発表等の学級学習活動(2年生98.1%)や相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えること(同92.3%)等の「学び合い」や「教え合い」が定着している。 ○ペア学習、グループ学習やICTの活用により、「わかる喜び」が学習意欲の向上につながっている。 ○ノーチャイムで生活することにより、時間の管理を自分でする習慣が身についている。また、自問清掃に取り組み自己と向き合うことで授業に自律的に取り組むことができる。 ○朝読書の定着により、静かな状態で一日が始まり、落ち着いた学習環境が生み出されている。 ○日々の授業をはじめ学校行事や部活動、2年生時の宝地図作り等を通して、達成感や自己肯定感を高め、将来の夢や目標を持っている生徒が増えている。 ○日々の授業の記述問題や振り返りシートだけでなく、自問清掃の心磨きノート、中学生日記、一滴一滴ノート等を書くことで、書く力が伸びている。 ○多くの教科で問題データベースを活用し、基礎・基本の定着を図っている。	○国語では、1年生の「書くこと」の領域、3年生の活用型の問題に課題がある。 ○数学では、3年生を中心に「関数」の領域に課題がある。 ○英語(2年生)では、「書くこと」の領域と活用型の問題に課題がある。 ○理科(3年生)では、「知識」に関する問題と第1分野の物理的領域に課題がある。 ○どの教科も授業がよくわかると思っている生徒(例)2年生国語90.4%、数学92.3%、英語76.9%、3年生数学81.7%、理科71.4%が多いが、家庭学習時間の不足、宿題の取組の仕方等に課題があり、基礎・基本の定着、応用力の向上に十分結びついているとはいえない。 ○2年生の「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったと思う」という質問に対して、否定的な回答をした生徒がそれぞれ5.8%、15.4%いたので、岡山型学習指導のスタンダードの徹底を図る。 ○部活動や委員会、行事の実行委員会や係会等が多く、小学校に比べ放課後の補充学習が十分とはいえない。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○書く力の向上	今年度中	・満一満ノートの書き写しと要約をして、ノートを提出する生徒が90%以上である。	・毎週水曜日の帰りの会で書き写したい文章を3つの中から班で相談して1つ選び、読み合わせをする。書き写しと要約は宿題として、次の週のはじめの日の朝の会で集めて教職員が点検し、コメントを書いて返却する。					
○基礎・基本の定着と学習意欲の向上	今年度中	・月に1回全校で同じ基本的な問題を解き(国語は漢字、数学は計算、英語は単語、社会は都道府県名、理科は重要語句等)、学習意欲が高まる生徒が増えている。	・10月社会、11月国語、12月数学、1月英語、2月理科の順に50問程度の課題を出し、その中から20問程度帰りの会で小テストをする。					
○家庭学習の定着と充実	今年度中	・平日、土・日とも家庭学習を1時間以上する生徒が80%以上である。 ・自学ノートの提出率が80%以上である。	・各教科で相談し、できるだけ宿題提出日を分散する。 ・授業・テストと宿題・自学ノートがリンクし、効果的な家庭学習ができるように口頭や文書で丁寧に説明する。 ・宿題の提出状況を家庭に細かく伝達する。					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○中学校区の小中連携の研究授業を実施し、授業改善や児童生徒の情報交換を行う(6月、10月)。 ○中学校区の小学校と連携して、ノーメディアの取組を行う(定期テストごと)。	○家庭学習について学級懇談や個別懇談と呼びかけるとともに、学校評価アンケート等で意識調査を行う。 ○ノーメディアの取組に積極的に関わっていただくように文書を発行したり、げんぼくんメールで依頼する。 ○ネット計画表や長期休暇のしおり等に保護者のコメント欄を設け、生徒の生活の様子を見て、アドバイスや励ましの言葉をかけていただくように依頼する。 ○テレビやゲームの時間、SNSの利用等について、家庭でしっかり話し合い、約束やルールを作っていくように依頼する。 ○生徒会を中心に久米中スマホ宣言を呼びかけ、川柳づくり等の活動を通じ自分たちの利用の仕方について考える時間を設定する。